

繁忙期の労働力不足を補うため、北海道と鹿児島という異なる繁忙期を有する地域を活用した、労働力を確保する取組みとしての産地間連携

事業実施主体構成員

(株) 北海道グリーンパートナー

※関係機関

- ・浦幌町大根生産者・JA忠類（忠類大根生産部会）
- ・(株)北海道ベジオス・大崎農園(鹿児島)

実績値（目標値）

< 確保する労働力の目標値（令和6年度末に達成度を計測） >

北海道産地における求人の充足率を40%から（令和5年度）55%
鹿児島産地における求人の充足率を80%（令和5年度）から90%
に上げる

< 令和5年度末現在での進捗状況(概算) >

【北海道】充足率58.8%（20 / 34人のうち）※HGP抽出による概算

【鹿児島】充足率87.5%（28 / 32人のうち）※大崎農園抽出による概算

令和5年度取組み内容

今年度の取組み内容

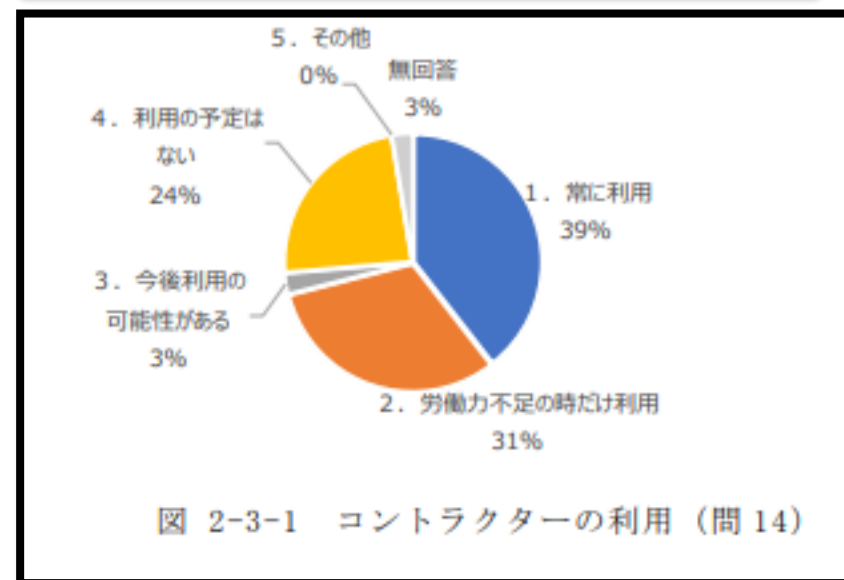
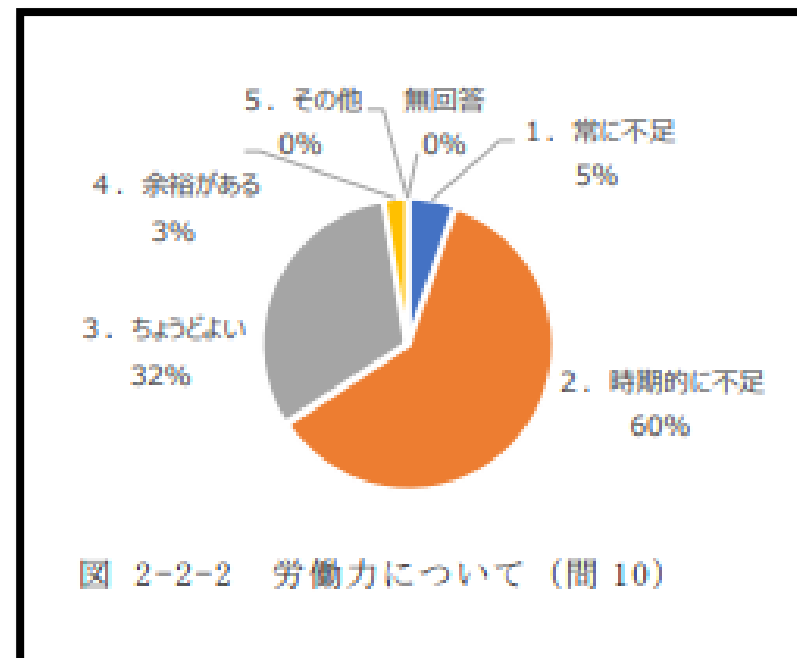
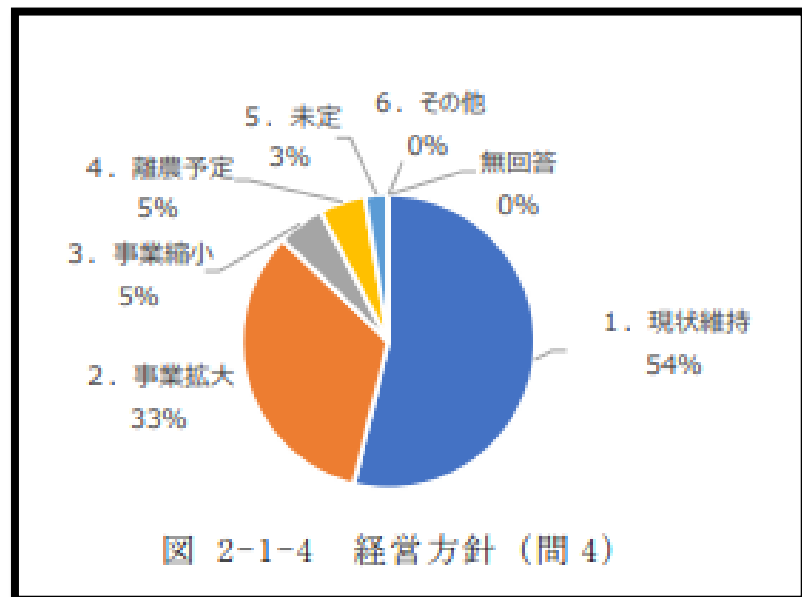
ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

- ・12月から3週間程度の期間で、北海道の浦幌地区と忠類地区を対象に、労働力状況に関するアンケート調査を実施。（38 / 200通 回答）
- ・経営方針として、54%が「現状維持」を、33%が「事業拡大」をしたいとの意向があるようです。【別紙参考資料 図2-1-4】
- ・労働力に関して、60%が「時期的に労働力が不足」と回答しており、「ちょうどよい」が33%、「常に不足」が5%、「余裕がある」が3%でした。
また、不足理由としては8割以上が「時期的に農作業が集中する」ためと回答していました。
不足理由の補足として「雇用後すぐ離職する」「応募が無い」といった人に関する理由は0でした。【別紙参考資料 図2-2-2】
- ・コントラクターの利用に関して、70%が「常に利用」又は「労働力不足の時だけ利用」と回答し、「利用の予定はない」が24%、「今後利用の可能性が
ある」が3%、「無回答」が3%でした。【別紙参考資料 図2-3-1】

イ 産地内での労働力確保・育成

- ・10月から2か月間、求人サイト「マイナビ」で人材を募集。
（実績：応募数1件、成立数0件）

【別紙参考資料】 アンケート調査結果



今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

・だいこんの収穫時期（7～10月、12～2月）に他産地の鹿児島と連携し、繁忙閑散期の異なるエリアからの労働力16名・5名の受入れを実施。

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：鹿児島(夏季)・北海道(冬季)

イ 労働場所（目的地）：北海道(夏季)・鹿児島(冬季)

ウ 宿泊場所：社員寮・社宅・借り上げアパート

エ 募集条件：

【夏季】7月上旬から10月下旬、JA浦幌内大根選果場、JA忠類内大根選果場を起点とする周辺圃場

労働内容：大根収穫作業・各農産物収穫作業・大根出荷場にて選別作業

【冬季】12月上旬から2月中旬、大崎農園大根選果場を起点とする周辺圃場

労働内容：大根収穫作業・各農産物収穫作業・大根出荷場にて選別作業

オ 技術力向上：大根選別作業は目視であり、技術的に人材のスキル向上がコスト低減にも繋がります。

周年化の選別作業が可能となり技術力のアップが必要であり、これを可能にしている人材交流です。

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

特に実施無し

オ 農業の「働き方改革」への取組

・特定技能1号に対し「大根選別に関する話（2023年7月、9月、2024年1月、2月）」を開催し、大根選別の総評や注意点に関するレクチャーを行った。（40～50名参加）

・特定技能実習生・日本人社員へのより手厚い福利環境の為、都度ヒアリングを行った。

本事業取組みにおける成果項目

1 北海道⇔鹿児島での連携体制の強化

鹿児島・北海道での大根出荷周年供給体制を取組んでいる大崎農園(鹿児島)との連携の中で、流通販売面に及び、加工業務実需者・量販店との契約販売も行ってきた。さらに労働力確保の面においても協調関係にあるが、とりわけ難易度の高いこの労働力確保における連携を、本事業を通して本格的に取り組む事で、体制強化することに繋がった。

2 連携による副次効果として実現した雇用

また、この連携を起点として繋がった人材紹介を行っている企業から、南九州の人材を紹介してもらい、特定技能1号を面談、直雇用として今年より5名入社。

3 新たな連携先の模索の開始

今年度の事業期間において、北海道⇔鹿児島での連携強化にとどまらず、新たに熊本、宮崎、福井の農業法人・取引先と連絡を取り合い、人材の確保として異なる繁忙期に人材を融通できる体制を画策。現状試験段階に入っているところで、次年度での実施が現実的などころまで。

次年度以降の取組み内容

引き続き、「1 北海道⇔鹿児島での連携体制の強化」について、効率性や連携規模の拡大など、持続性をもった取り組みとして連携強化を進めてまいります。

また、「3 新たな連携先の模索の開始」に記載した熊本、宮崎、福井との新たな連携は、当産地(北海道)においてはもちろんのこと、連携先産地側にとっても大きな兆しであると認識しており、相乗効果により双方にとって実りあるものになるとともに、それが微小ながら全国への波及効果にもつながればと考えております。

■連携産地とのやり取り (通年)

- ・既存連携産地との取組推進
- ・新たな連携産地の開拓

■研修会・セミナーの開催 (5~6月)

- ・労災、安全衛生管理等の講習会実施

■研修等の実施 (11月、2月)

- ・連携産地の拡充に向けた取組
- ・連携産地での労働力育成

■その他 (1月)

- ・求人広告掲載